

大丁 中村與助家資料の紹介

佐藤良宣*

Report on the Historical Material of Yosuke Nakamura's Family in Aomori city

Yoshinobu Sato

Key words: 青森市, 大丁中村與助商店

はじめに一同家の概要

青森市米町にあった中村與助（よすけ）家は、かつては多種の商品を扱う青森の町では屈指の商家であった。屋号は「大丁（だいちょう）」である。初代與助は、砂糖・麦粉・備前畳表の卸問屋を始めたという⁽¹⁾。明治25(1891)年発行の「青森実地明細絵図」にその名がある。これにより、当時は安方町に店を構え、「煙草仲買砂糖荒物卸商」を営んでいたことがわかる。明治30(1897)年11月6日付け東奥日報に広告を出しており、同年11月3日、米町に新築移転したことを知らせている⁽²⁾。その場所は、現在の青森市本町二丁目（スマイルホテル青森東側）にあたる⁽³⁾。以後も、雑貨・食品・蘭草（いぐさ）等を扱う卸問屋であり、保険の代理店も兼ねていた。

2代目中村與助(1882～1945年, 明治15～昭和20年)は、青森信託株式会社社長、青森銀行取締役を務めたほか、大正4(1915)年以来連続5期青森商業会議所（1928〈昭和3〉年、青森商工会議所と改称。）の議員を務めた。戦後も存続し、昭和40年代頃まで米町で商売を続けていた。

同家資料のあらまし

この度、当館では、同家の資料の寄贈を受けることとなった。その概要を以下に紹介する。

1 絵画の印刷物・絵葉書

題名	備考	冊数	発行日等
(印刷水墨画 十二支)	熊澤喜太郎 発行 金色の地に印刷した水墨画。十二支の動物をテーマにした物。セットで販売されたものと推察される。円山応挙、土佐光起、谷文晁、渡辺華山などの絵の複製。石版印刷と思われる。	12	明治26年9月5日
森蘭丸、刻鞘ヲ数フル図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
ニュートン林檎の落ちるを見る図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
孟母、孟子を戒ムル図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
ナイチンゲール嬢博愛の図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
皇后、雄略天皇を諫め賜う図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
フランクリン、紙鳶を放って雷電の性質を知る図	戦時画報発行所 東京 合資会社近事画報社	1	明治30年代
(鳳凰図)	東京朝日新聞付録	1	明治40年1月1日
東京朝日グラフィック	眼鏡の紳士が描かれている。人物名不明。裏面に「御料白粉」の広告。東京朝日新聞付録	1	大正10年1月15日
平和のよろこび(絵)	時事新報付録	1	大正10年3月10日

* 青森県立郷土館 主任学芸主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

題名	備考	冊数	発行日等
近く御来朝予定の英国皇太子殿下（絵）	東京朝日新聞付録	1	大正11年2月20日
英国皇太子殿下（絵）	時事新報付録	1	大正11年4月9日
絵画「長閑けき春」	歴史写真大正12年新年号付録	1	大正12年1月1日
明治神宮太平楽の図	大阪毎日新聞付録	1	昭和7年1月1日
錦州入城式	週刊朝日創刊10周年記念号付録 週刊朝日21巻10号、昭和7年2月21日発行	1	昭和7年2月21日
巖島神社管弦祭の図（宮島）	大阪毎日新聞付録 中野早雲 画	1	昭和7年3月5日
祇園祭の図	大阪毎日新聞付録	1	昭和7年5月5日
諏訪神社大祭の図（長崎）	印刷物。福田恵一 画	1	戦前
（絵葉書）	袋入り 株式会社三菱銀行 新築落成記念 7枚入り。	1	大正11年4月18日
原首相在りし日の面影（新聞特集記事）	岩手日報付録	1	大正11年1月1日

絵画の印刷物については、新聞の付録であった絵の印刷物が8点ある（写真1）。それらはいずれも大阪・東京で発行されたものである。当時は、新聞、殊に中央紙が、地方にあっては現在以上に貴重な情報源であり、かつそのかたわら、地方にも文化的教養を伝える役割を持っていたと言えるかもしれない。明治・大正期の新聞は、元日号に毎年石版画などの附録がしばしば附属した。⁽⁴⁾

これとは別に、原敬首相の足跡を写真によりたどる特集記事がある。内容。年代の記入はないが、原敬首相死去後最初の元日（1922〈大正11〉年1月1日）に発行されたものと考えられる。この新聞付録には、岩手県に本店を置く銀行の青森支店のゴム印が有り、その支店から、取引先である中村商店に贈られたものであることが推察される。

次いで、近時画報社が発行した画報がある。この画報は、明治30年代に国木田独歩が製作していた。この時代の画報は、主として日清・日露戦争などの戦況が主な内容であったが、この資料中の画報は写真2に見られるように、ニュートンが、林檎の落ちる様子を見る図のほか、「森蘭丸鞘数ヲ数フル図」「孟母、孟子を戒ムル図」など、日本をはじめ、西洋・東洋の歴史的故事をテーマにした内容のものである。

また、三菱銀行本社の新築記念絵葉書がある。3代目與助は、三菱銀行に勤めた経験があり、その頃入手したものと思われる。

2 写真

（1）店舗の様子を伝える写真

中村商店の建物を撮影した写真は2枚あり、1枚が商店の建物の全景を撮影したもの（写真3）である。もう1枚が初荷の様子を伝えるもの（写真4）である。この写真には、「明治精糖」「琉球黒糖直輸入」とそれぞれ書かれた広告が取り付けられたトラック2台を先頭に、荷車が列をなしている。いずれも、撮影されたのは戦前と考えられる。



写真1 英国皇太子殿下
（時事新報 1922〈大正11年〉
4月9日付 付録）

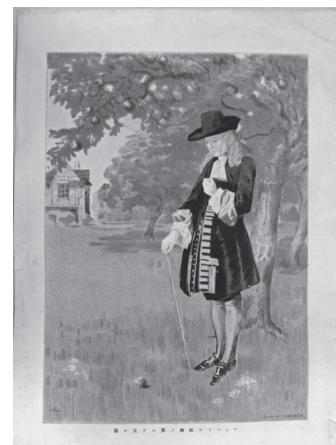


写真2
ニュートン林檎の落ちるを見る図
（近事画報社発行）



写真3 中村商店全景



写真4 初荷の様子

(2) ご家族の写真



写真5 青森市民管弦楽団演奏会の様子



写真6
淡谷のり子 数え年2歳の頃の写真

学校関係の記念写真のほか、以下のようなものもある。

・青森管弦楽団関係

3代目中村與助は襲名前の名を準助といい、地元のオーケストラである青森市民管弦楽団（結成当初は青森市民合奏団）で活躍していた⁽⁵⁾。これに関係する写真は、アルバム1冊にまとめられている。

・淡谷のり子、淡谷家関係の写真

大丁中村家は、淡谷のり子で知られる淡谷家と親戚関係があり、淡谷のり子に関わる写真も数枚含まれる。1歳の頃の写真のほか、戦後、帰省の際に撮影された記念写真がある。

(3) 業界団体の集会等の記念写真

大丁中村家は、多種多様な品物を扱う問屋であったためか、様々な製品の特約店となっていた。また、それは、全国各地の製造元が開く様々な会合の際に撮影された記念写真からうかがい知ることができる。

その際に訪れた際に立ち寄った場所の写真もある。同家は砂糖の卸売を扱っていたので、商用旅行の際に訪れたと思われる沖縄の様子を伝える写真がアルバムに残されている。

(4) 戦死者の市葬に関する写真



写真7 市葬の様子

寄贈資料中に、青森市の市葬に関わる写真が2枚ある。1枚は故人の遺影である。その裏書きによると、昭和11(1936)年満州の8月27日に西阿穆達（シーオームダー）附近の戦場で銃撃を受けて戦死、同年9月25日に正覚寺で青森市長千葉伝蔵氏が祭主となって市葬が行われた、とある。もう1枚の写真（写真7）が市葬の様である。なお、故人は、大丁中村商店の元従業員と考えられる。

市町村が戦死者に対して行う同様の葬儀は、1930（昭和5）年の満州事変の際、青森市でも行われており^⑥、同様の例は全国各地で見られる。

3 学校関係の資料

ご家族の賞状、通信簿、修業証書、卒業証書、副級長任命書である。

そのなかには、青森県立女子師範学校附属小学校3・4学年の記念アルバム（写真8）も含まれる。そのアルバムの中には、遠足など、学校行事の様子の模様の写真が収められている。青森市内の学校の沿革史に係わる資料といえる。



写真8 青森県立女子師範学校附属小学校3・4学年アルバム

4 その他書類

慈善活動への感謝状、辞令、推薦書（日本赤十字社社員）、御下賜金の通知などがある。

1910（明治43）年、青森大火で青森市市街地のほとんどが焼け落ち、大丁中村商店も被害を受けた。その際、宮内省から「御沙汰書」（写真9）とともに、天皇・皇后からの見舞金の下賜が行われたことがわかる。

そのほか、軍人援護会への献金に対する感謝状などがある。

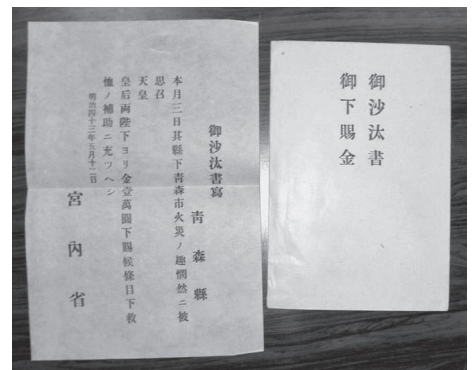


写真9 御沙汰書

5 書籍

(1) 小説

題名	備考	冊数	発行日等
絵本顕勇録 一～五、七～十	速水春暁斎画 青雲堂 文化七年 京都書林	9	文化7年
為朝外伝 鎮西琉球記 初篇 巻一～十	宮田南北著 法橋 岡田玉山 画 二巻ずつ合本	5	天保5年
大友金道忠孝図絵 後篇 巻五	著編 山田意斎 図画 柳斎重治 嘉永三年十一月	1	嘉永3年11月

題名	備考	冊数	発行日等
絵本通俗三国志 三、六～ 巻拾一、十七	和解者 清水市次郎 大蘇芳年口絵	9	明治10年
絵本三国志 巻之五	河合源蔵発行 明治26年	1	明治26年
通俗絵本三国志 第一、四、 八編	河合源蔵発行 明治26年	3	明治26年
絵本三国志 巻之上・下	変体仮名を多く含む活字本。	2	明治

書籍の中では小説、特に、三国志の冊数は多い（写真10）。幕末期の版本と明治期の活字本である。なかには、「木造村 近江屋 持主也」と裏表紙に書かれたものもあった。（写真11）

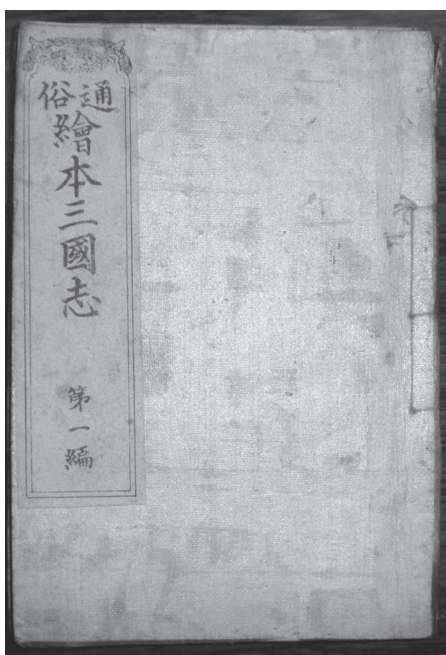


写真10
『通俗絵本三国志』第一編

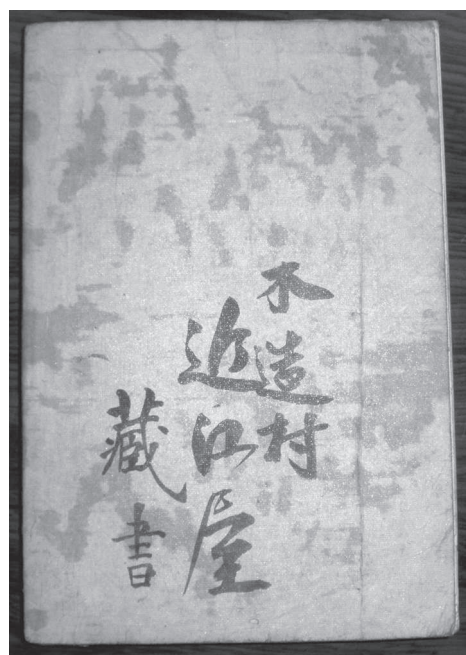


写真11
「木造村 近江屋 持主也」の書き込み

（2）詩歌

『伊勢物語山口抄』は、中世の連歌師として知られる宗祇による『伊勢物語』の歌の注釈書である。
また、『桂の落葉』は江戸時代後期の歌人 香川景樹の歌集である。

資料名	備考		年代・日付等
『伊勢物語 山口抄』		1	天保5年
桂の落葉 下	仲田藤右衛門校正青雲堂英文蔵梓	1	天保14年12月

（3）実用書

資料名	備考	発行日等
論説 記事簡牘文例 巻之二	今井匡之著	明治13年9月29日
国民信用文	塩見文準編 明治23年発行	明治23年

いずれも、明治期の活字本であり、書簡文の文例集である。

(4) 書道関係

資料名	発行日
名家真筆集 第1集	明治25年4月10日
名家真筆集 第3集	明治25年5月10日
名家真筆集 第4集	明治25年6月21日
名家真筆集 第5集	明治25年7月25日
名家真筆集 第6集	明治25年8月19日
名家真筆集 第7集	明治25年9月20日
名家真筆集 第8集	明治25年10月20日
名家真筆集 第9集	明治25年6月21日
名家真筆集 第10集	明治25年12月18日



写真12 『名家真筆集』第1巻

注目されるのは、『名家真筆集』という、著名人の筆跡を集めた本である。商家の実務に書道の腕前はある程度要求されたとはいえ、書に対する並々ならぬ思いが感じられる。

(5) 『関東大震災画報』

資料名	備考	発行日
関東大震災画報 第1集	大阪毎日新聞	大正12年9月15日
関東大震災画報 第2集	大阪毎日新聞	大正12年10月1日
関東大震災画報 第3集	大阪毎日新聞	大正12年10月28日

1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災の被災地の状況を伝える写真画報である。



写真13 『関東大震災画報』第1集

7 地図

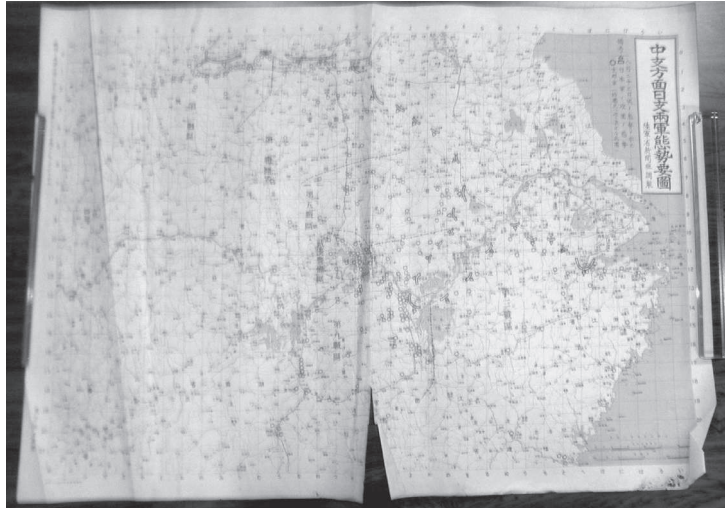


写真14 中支方面日支両国態勢要図

6 部あり、いずれも終戦以前に雑誌・新聞の付録として発行されたものである。以下にその一覧を示す。

資料名	備考	発行日
隴海線戦局地図	大阪朝日新聞附録	昭和13年 5 月17日
中支方面日支両国態勢要図	東京朝日新聞附録	昭和13年 8 月23日
中部支那明細図	『週報』100号附録 陸軍新聞班	昭和13年 9 月14日
広東方面明細図	『週報』106号附録 内閣印刷局発行	昭和13年10月26日
蘭領印度明細図	『放送』3月号付録 放送ニュース聴取用地図 第2輯 日本放送協会発行	昭和17年 3 月1日
ビルマ印度明細図	『放送』4月号付録 放送ニュース聴取用地図 第3輯 日本放送協会発行	昭和17年 4 月1日

どの図も、日本軍の当時の戦闘地域を含み、その一部には戦況も図示されている。1930(昭和5年)の満州事変の頃から、中学生向けの少年雑誌『少年時代』でも日本軍の戦況を扱った特集記事が掲載されており、同様の傾向はこの期間の新聞・雑誌に広く見られたものと考えられる。このような記事が国民の関心を引きつけていた様子がわかる。なお、『週報』は、『官報』のかつて発行されていた付録である。

おわりに

以上により概観した大丁中村與助家資料に関する調査はまだ着手したばかりである。上述の資料紹介に関して至らない点が多々あることはお許し願いたい。

1945(昭和20)年の空襲で市街地の約8割を焼失した青森市において、このような資料が残っていたことは驚きの限りである。寄贈者の話によると、上述の資料を置いていた土蔵にも火が入り、実際、焼け焦げのある資料も見受けられる。商家の資料でよく見られる帳簿類は含まないものの、写真資料が豊富である。

これら資料は、近代のこの地域の商家の方々の興味・関心の方向を示すものと言える。その時代の人々が、日本軍の関与する戦争の状況に強い関心を示していたことはよく知られたことであるが、これら資料の中にそれを裏付けるものがあることは言うまでもない。また、商売上必須の能力である書については、かなり研鑽を積もうとしていたことがうかがわれる。

最後に、このような豊富な資料を当館に御寄贈頂き、合わせて数々の情報提供をして頂いた中村亮造氏に対し、感謝を申し上げたい。

註

- (1) 『青森県大人名事典』 東奥日報社 1969年
- (2) 当該広告には「青森米町三丁目」とある。しかし、寄贈者である中村亮造氏はこの時から戦後まで移転したことはない、と証言しており、広告の記述とは食いちがいがある。註釈(3)も参照のこと。
- (3) 『青森市住宅詳細図』 日本経済通信社 1962年、および中村氏の証言による。なお、ここはかつての米町二丁目にあたる。
- (4) 春原昭彦「ようこそニュースパークへ 46 新聞附録」 『新聞研究』 No.690 2009年 50頁
- (5) 『青森県人名辞典』 東奥日報社 2002年
- (6) 『新青森市史』 通史編3 近代 544頁 2014年